

高等学校 令和5年度（1学年用）教科

保健体育 科目 体育

教科：保健体育

科目：体育

単位数：3 単位

対象学年組：第1学年 1組 2組 F組 A組

使用教科書：（ ）

教科 保健体育

の目標：

【知識及び技能】各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考するとともに、他者に伝える力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたり、継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 体育

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組み、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価機会			評価規準	知	思	態	配当 時数
		知・技	知	技					
1 学 期	A 単元 体づくり運動 身体を動かす楽しさや心地よさを味わい運動をする意義、身体の構造、運動の原則などを理解し、目的に適した運動の計画を立て、取り組むことができるようにする。	・体ほぐし ・ラジオ体操 ・短縄跳び タブレット撮影	○	○	○	○	○	○	12
	C 単元 陸上競技 短距離・リレーでは中間走へのつなぎを滑らかにして早く走ることやバトンの受け渡して自走者のスピードを十分高める事	・短距離走 ・リレー タブレット撮影	○	○	○	○	○	○	6
	D 単元 水泳 水泳 クロール 手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで長く泳いだり速く泳いだりすることができるようにする。	・水泳	○	○	○	○	○	○	8
F.単元 柔道、 E.単元 球技（ゴール型：サッカー）	・柔道 ・サッカー タブレットで撮影								

高等学校 令和5年度（1学年用） 教科 保健体育 科目 保健

教科：保健体育 科目：保健 単位数：1 単位

対象学年組：第1学年 H1組 H2組 F組 A組

使用教科書：（高等学校 保健体育（Textbook、Activity））

教科 保健体育 の目標：

- 【知識及び技能】 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに他者に伝える力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 栽培と環境 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
<p>4月 第1章 現代社会と健康 第1節 健康の考え方 1. 国民の健康水準の向上と変化する健康課題 (1)日本の健康水準が、科学技術や医療の発展に伴って向上してきたこと、病気の傾向が変化してきていることをわきまにする。 (2)日常生活において、自らの健康を考えて、病気を予防しようと努めることができる。 (3)身の回りや日常生活における病気の傾向、我が国の健康水準について調べることができる。</p> <p>5月（6月） 第2節 現代の感染症とその予防 1. 感染症の予防 (1)感染症が発祥する仕組みや、感染症のしゅいを知り、感染症の予防には適切な対策が必要であることについての理解を深める。 (2)感染症の現状を知り、予防するための方策について考えとともに、人権への配慮ができる。 (3)感染症の成立のしくみを理解し、日常生活の中での感染症予防に役立てることができる。 2. 性感染症の予防 (1)性感染症について正しい知識を持ち、感染経路やその予防法についても理解をふかめる。 (2)性感染症を予防するための方策について考えとともに、人権への配慮ができる。 (3)性感染症とその予防や治療についての情報を、教科書などから積極的に調べることができる。</p>	<p>第1章 現代社会と健康 第1節 健康の考え方 1. 国民の健康水準の向上と変化する健康課題 2. 健康の保持増進とヘルスプロモーション</p> <p>第2節 現代の感染症とその予防 1. 感染症の予防</p> <p>第3節生活習慣病などの予防と回復 1. 生活習慣病の予防</p> <p>2. 食事と健康</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・死因別にみた、我が国の死亡率や患者の病気の傾向について理解できる。 ・新しい病気の傾向について、具体的な事例を踏まえて理解できる。 ・ヘルスプロモーションの定義について理解することができる。 ・健康の保持・増進するための環境について理解することができる。 ・感染症を防ぐための対策について、感染の仕組みとともに、正しい知識を持つことができる。 ・生活習慣病の原因とその予防に関する3つの段階について正しく理解することができる ・健康的な食生活のための栄養素の働きや食事摂取基準について、正しく理解を持つことができる。 	○	○	○	6
1 学 期	6月 第3節 生活習慣病などの					

<p>予防と回復</p> <p>1. 生活習慣病の予防</p> <p>(1) 現代の死因の大部分を占める生活習慣病について、原因とその予防に対する対策についての理解を深める。</p> <p>(2) 自らの生活習慣を顧みて生活習慣病予防のための適切な行動を選択することができる。</p> <p>(3) 生活習慣病の要因についての情報を集め、自らの生活習慣の改善に役立てることができる。</p> <p>2. 食事と健康</p> <p>(1) 健康を保持・増進するとともに、生活習慣病をよぼうするために、基本的な生活習慣である食事の意義や役割についての理解を深める。</p>						
<p>6・7月</p> <p>3. 健康と運動・休養・睡眠</p> <p>(1) 食事とともに基本的な生活としての「運動・休養・睡眠」を重視しその役割や実践方法についての理解を深める。</p> <p>(2) 生活習慣病予防との関連で運動を捉え、運動の種類や方法を適切に選択することができる。また肉体的な疲労のみでなく、精神状態の維持などの為の「休養・睡眠」のあり方を考えることができる。</p> <p>(3) 日常生活の中に積極的に運動を取り入れようとすることができる。また、休養・睡眠の果たす役割の重要性を知るとともに人間の日内リズムについて、積極的に学習できる。</p>	<p>3. 健康と運動・休養、睡眠</p>	<p>・有酸素運動をはじめ、各運動の特性や役割、効果について具体的に理解することができる。</p> <p>・休養・睡眠の役割や、にんげんの日内リズムなどについて、正しく理解することができる。</p>	○	○	○	4
<p>定期考査</p>			○	○		1
<p>9月</p> <p>4. がんの発生と予防</p> <p>(1) がんの発生のメカニズム、発がん物質、またがんの原因となる行動を知り、その予防と治療法についての理解を深める。</p> <p>(2) 自分の周囲にある発がん物質を回避するための行動を、適切に選択することができる。</p> <p>(3) がんの予防について、生活習慣との関わりを相互に考えることができる。</p> <p>第4節 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康</p> <p>1. 喫煙と健康</p> <p>(1) 喫煙者本人のみにとどまらない喫煙による健康被害について、正しく理解することができる。また未成年者の喫煙による健康への影響について正しく理解することができる。</p> <p>(2) 喫煙マナーのあり方についても考えることができる。</p> <p>(3) 心身への害についての情報や喫煙問題への対策などを、教科書などから積極的に調べることができる。</p> <p>10月</p> <p>2. 飲酒と健康</p> <p>(1) 飲酒による心身の健康や胎児への影響について、正しく理解することができる。</p> <p>(2) 飲酒による身体器官への影響だけでなく精神的な影響についても考えることができる。</p> <p>(3) 心身への害についての情報を教科書などから積極的に調べること</p>	<p>4. がんの発生と予防 タブレット使用</p> <p>1. 喫煙と健康 タブレット使用</p> <p>2. 飲酒と健康 タブレット使用</p> <p>3. 薬物乱用とその防止 タブレット使用</p> <p>1. 脳と神経の働き タブレット使用</p>	<p>・がんを早期に発見することの重要性について知り、がんの予防や治療に関する正しい知識を持つことができる。</p> <p>・喫煙者本人のみでなく、周囲の人への健康影響などについて理解を深め、喫煙に関する適切な意思決定や行動選択をできるようにする。</p> <p>・アルコールの作用や、それに伴う健康障害についての理解を深め、飲酒に関する適切な意思決定や行動選択をできるようにする。</p> <p>・薬物乱用は心身の健康に対して深刻な影響を与えることを理解し、絶対に薬物に手を出さない強い意志を身に付けることができるようにする。</p> <p>・人間の行動や精神活動などのすべてをコントロールしている、脳・神経系・内分泌系の各部の働きについての理解を深める。</p> <p>・人間の欲求は様々なものがあるが、そのすべてが満たされるものではないため、欲求不満に対する耐性を身につけることの重要性についての理解を深める。</p> <p>・精神疾患は精神機能の基盤となる心理的、生物的、または社会的な機能の障害などが原因となり、精神活動が不全になった状態であることについて理解を深める。</p> <p>・精神疾患は誰しもが罹患しうること、若年で発症する疾患が多いこと、適切な処置により回復が可能であることについて理解を深める。</p>				

<p>ができる。</p> <p>3. 薬物乱用とその防止</p> <p>(1) 薬物乱用による心身の健康や社会的な影響について正しく理解することが出来る。</p> <p>(2) 薬物乱用を防ぐためには、どのようなしきを持つことが重要であるかを考えることができる。</p> <p>(3) 薬物乱用による心身への害や薬物ごとの特徴を、積極的に調べる事が出来る。</p> <p>11月</p> <p>第5節 精神疾患の予防と回復</p> <p>1. 脳と神経の働き</p> <p>(1) 大脳の各部の働きによる行動、精神活動に関する正しい知識を持つことが出来る。</p> <p>(2) 自らの行動と、その時の脳の働きについて関連付けて考えることが出来る。</p> <p>(3) 大脳を中心とした身体の機能調節についての情報を積極的に収集し、学習することが出来る。</p> <p>2 学 期</p> <p>2. 欲求不満と適応機制</p> <p>(1) 欲求の種類について正しい知識を持つことが出来る。また、てきおうせいについて正しい知識を持つことが出来る。</p> <p>(2) 欲求不満を回避するために自らがとった行動を、適応機制と関連付けて考えることができる。</p> <p>(3) 人間が持つ欲求や欲求への耐性について、自らの体験などと照らし合わせて、積極的に調べる事が出来る。</p> <p>12月</p> <p>3. 心の健康と精神疾患</p> <p>(1) 心の健康について正しい知識を持つことが出来る。また、精神疾患にはどのようなものがあるかについて、正しい知識を持つことができる。</p> <p>(2) 心の不調について自らの体験と関連付けて考えることが出来る</p> <p>(3) 主な精神疾患やその症状についての情報を積極的に収集し、学習することが出来る。</p> <p>4. 精神疾患の予防と回復のために</p> <p>(1) 心と体のつながりを知り、心の健康を保つ為の方法について正しい知識を持つことができる。回復の為に実行されている支援などについて正しい知識を持つことが出来る。</p> <p>(2) 習得した知識をもとに心身の健康を保つための行動や対策について考えることが出来る。</p> <p>(3) 心と体のつながりについて、自らの体験などに照らし合わせて考えとともに、精神疾患からの回復についての情報を積極的に調べる事が出来る。</p>			○	○	○	8
						2

3 学 期	<p>1月</p> <p>第2章 安全な社会生活</p> <p>第1節 安全な社会づくり</p> <p>1. 交通事故と安全の確保</p> <p>(1) 人・環境・車両の3つの要因によって発生する交通事故と運転者の責任について正しい知識を持つことができる。</p> <p>(2) 交通事故防止のための行動を知り、事故を回避する為の適切な行動を選択出来る。</p> <p>(3) 交通事故の原因や運転時の身体機能の変化について、積極的に調べる事が出来る。</p> <p>2. 安全・安心な社会づくり</p> <p>(1) 安全な社会作りの為に行われている対策や安全確保の為の必要な条件について正しく理解できる</p> <p>(2) 安全・安心な社会づくりの為に行われている対策について知り安全に暮らす為の行動を適切に選択することができる。</p> <p>(3) 安全に暮らす為の対策について積極的に調べる事が出来る</p> <p>2月</p> <p>第2節 応急手当</p> <p>1. 適切な応急手当の手順</p> <p>(1) 応急手当の第1段階である観察の手順について正しい知識を持つことができる。</p> <p>(2) 実際の手当が必要な傷病者に遭遇した場合、必要な行動を適切に選択することができる。</p> <p>(3) 傷病者に対する観察の手順について、実習などを通して確実に身に付けようとする事ができるとともにAEDの効果について積極的に調べる事が出来る。</p> <p>2. 心肺蘇生法の実践</p> <p>(1) 心肺蘇生法の手法について、ただしい知識と技能を身に付ける事が出来る。</p> <p>(2) 心肺蘇生法が必要な傷病者に対して必要な行動を適切に選択することができる。</p> <p>(3) 傷病者を救命するために行う胸骨圧迫・AEDの使用法・気道の確保・人工呼吸について、実習などを通して確実に身に付けようとする事が出来る。</p>	<p>第2章 安全な社会生活</p> <p>第1節 安全な社会づくり</p> <p>1. 交通事故と安全の確保</p> <p>2. 心肺蘇生法の実践</p>	<p>・交通事故を防止するためには、車両の特性の理解、安全な運転や、歩行などの適正な行動が重要であることについての理解を深める。</p> <p>・安全に暮らす為の対策を知り、意識や行動についての理解を深める。</p> <p>・応急手当の重要性を知り、傷病者の観察や応急手当の正しい手順についての理解を深める。</p> <p>・胸骨圧迫・気道の確保・人工呼吸の心肺蘇生法について、正しい手法を理解し、身につける事が出来るようになる。</p> <p>・日常おこるけがなどに対する手当の方法について知るとともに、熱中症への対策・予防についての理解を深める。</p>	○	○	○	5
	合計						26

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科

保健体育 科目 体育

教科：保健体育

科目：体育

単位数：2 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組 2 組 F 組 A 組

使用教科書：（ ）

教科 保健体育

の目標：

【知識及び技能】 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考するとともに、他者に伝える力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたり、継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 体育

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価機会			評価規準	知	思	態	配当 時数
		知・技	知	技					
A 単元 体づくり運動 身体を動かす楽しさや心地よさを味わい運動をする意義、身体構造、運動の原則などを理解し、目的に適した運動の計画を立て、取り組むことができるようにする。	・体ほぐし タブレット撮影	○	○	○	【知識・技能】 定期的・計画的に運動を継続することは、心身の健康、健康や体力の保持増進に繋がる意義があることについて、言ったり書き出したりしている。 【思考・判断・表現】 体力の程度や性別等の違いに配慮して、仲間とともに体づくりを楽しむための方法や修正の仕方を見つける。 【主体的に学習に取り組む態度】 一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとしている。	○	○	○	6
4種目から選択 E. 単元 球技（ソフトボール） ・安定したボール操作とバットコントロールを作り出す動きなどからゲームをすることができるようにする。	・ソフトボール タブレットで撮影	○	○	○	【知識・技能】 ソフトボール 安定したボール操作ができる。 バットコントロールができる 【思考・判断・表現】 合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに楽しむための活動の仕方を見つけている。 【主体的に学習に取り組む態度】 それぞれの種目の学習に自主的に取り組もうとしている。健康・安全を保持している。	○	○	○	
E. 単元 球技 （ゴール型：バレーボール） ・役割に応じたボール操作や、安定した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるようにする。	・バレーボール タブレットでの撮影	○	○	○	【知識・技能】 バレーボールの専門用語、基礎・基本の技術、守備位置や攻撃の隊形を理解している。 て学習した具体例を挙げている。 【思考・判断・表現】 体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間と共にバレーボールを楽しむための活動の方法や修正の仕方を見つけている。 【学びに向かう力・人間性等】 バレーボールの学習に自主的に取り組もうとしている。一人一人の違いに応じて協力し合うようにしている。	○	○	○	12
E. 単元 球技 （ネット型：テニス・バドミントン） ・用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるようにする。	・テニス・バドミントン タブレットでの撮影	○	○	○	【知識・技能】 テニス・バドミントンの名称、基本技術のポイントがあることを理解している。狙った方向にボール・シャトルを打ち返すことができる。 【思考・判断・表現】 合理的な自己や仲間の動きを比較して成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。技能の程度、性別の違いに配慮して、仲間とともにテニスを楽しむための方法や修正の仕方を見つけている。 【主体的に学習に取り組む態度】 テニスの学習に自主的に取り組もうとしている。一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを大切にしようとしている。	○	○	○	
4種目から選択	・サッカー				【知識・技能】 サッカー 安定したボール操作ができる。ゴール前の空いている空間に侵入することができる。ゴールの枠内にシュートを打て				

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 保健体育 科目 保健

教科：保健体育 科目：保健 単位数：1 単位

対象学年組：第2学年 H1組 H2組 F組 A組

使用教科書：（高等学校 保健体育（Textbook、Activity））

教科 保健体育 の目標：

- 【知識及び技能】 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに他者に伝える力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 保健 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
<p>4月 第3章 生涯を通じる健康 第1節 生涯の各段階における健康 1. 思春期と健康</p> <p>(1) ライフステージと青年期</p> <p>(2) 思春期の心の成長と性意識の変化</p> <p>2. 思春期の体と健康</p> <p>(1) 男女の体の変化</p> <p>(2) 責任ある行動をするために</p> <p>5月</p> <p>(3) 健康な結婚生活のために</p> <p>(4) 家族と健康</p> <p>(5) 受精から妊娠・出産へ</p> <p>(6) 母子の健康を守る</p> <p>6月</p> <p>(7) 家族計画とは</p> <p>(8) 人工妊娠中絶と不妊治療</p>	<p>第3章 生涯を通じる健康 第1節 生涯の各段階における健康 1. 思春期と健康</p> <p>2. 思春期の体と健康</p> <p>3. 結婚生活と健康</p> <p>4. 新しい生命の誕生</p> <p>5. 家族計画と不妊治療</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・二次性徴の始まりや完成には個人差があることを理解できる。 ・青年期の健康課題については、不慮の事故や自殺も多く、悪い生活習慣が身についてしまう時期であることを理解できる。 ・思春期は、精神的動揺が激しくなり、人と比べず、自己肯定感を持つことが大切であることを理解できる。 ・男性と女性の体は二次性徴でどのように変化し、生殖機能を備えていくのか理解できる。 ・男性と女性の体の成長と変化を理解させ、互いの気持ちや意思を確認し、尊重し合うことが大切であることを理解できる。 ・結婚の成立と結婚生活を健康に送るために必要なことを理解できる。 ・乳幼児と高齢者の健康について理解することができる ・受精から妊娠の成立までの過程を理解することができる ・妊娠中の注意点などを理解することができる ・出産までの経過と新生児の様子について理解することができる ・妊娠確認後から産後にかけての体の変化と気を付ける点を理解できる ・家族計画について理解することができる。 ・各避妊方法の特徴と欠点を理解することができる 人工妊娠中絶の問題点を理解することができる 	○	○	○	10
1学期						

7月	6. 不妊治療	・不妊治療の方法と課題について理解することができる	○	○	○	
定期考査			○	○		1
9月 6. 加齢と健康 加齢と健康課題 高齢社会における取り組み 第2節 労働と健康 1. 労働者の健康・安全と健康問題 (1) 労働者の健康・安全を守るしくみ (2) 労働環境の変化と健康問題 2. 労働災害・職業病とその予防 (1) 職業病とその予防 (2) 労災防止のための安全対策と労災保険 10月 3. 労働者の健康づくりと「働き方改革」 (1) 労働者の健康づくり (2) 「働き方改革」と健康 第4章 健康を支える環境づくり 第1節 環境・食品と健康 1. 環境汚染の広がりとその影響 (1) 人間活動と生態系 (2) 国境を超える人間活動と地域環境問題 2. 大気汚染の健康への影響と対策 (1) 大気汚染による健康被害 (2) 大気汚染防止対策 11月 3. 水質汚濁と土壌汚染の健康への影響と対策 (1) 水質汚濁の影響と対策 (2) 土壌汚染の影響と対策 4. 廃棄物の処理と健康 (1) 産業廃棄物の処理 (2) 化学物質と環境汚染 5. 環境衛生活動 (1) ごみの処理と減量への取り組み	7. 加齢と健康 第2節 労働と環境 1. 労働者の健康・安全と健康問題 2. 労働災害・職業病とその予防 3. 労働者の健康づくりと「働き方改革」 第4章 健康を支える環境づくり 第1節 環境・食品と健康 1. 環境汚染の広がりとその影響 2. 大気汚染の健康への影響と対策 3. 水質汚濁と土壌汚染の健康への影響と対策 4. 廃棄物の処理と健康 5. 環境衛生活動 6. 食品の安全性の確保	・加齢により、どのような健康課題が現れるか理解することができる ・高齢社会を健康に生きるには、どのような取り組みが必要か理解することができる ・労働者の健康・安全を守るために何が行われているかを理解することができる ・過重労働・ストレスはどのような健康問題を生じているかを理解することができる ・職業病を防ぐために、どのような対策が行われているか理解することができる ・労働災害を防ぐためには、どのような方法があるかを理解することができる ・労働者の健康のため、どのような取り組みがなされているか理解することができる ・「働き方改革」はなぜ必要か理解することができる ・環境汚染や公害の原因を理解することができる ・地球環境問題が重要な問題で、対策が難しいのはどうしてかを理解することができる ・大気汚染は、健康にどのような影響をもたらしてきたかを理解することができる ・大気汚染防止・軽減のため、どのような努力がなされているかを理解することができる ・水と土壌の汚染は、健康にどのような影響をもたらしたかを理解することができる ・水質汚濁と土壌汚染には、どのような対策がなされているかを理解することができる ・不適正処理の廃棄物は、健康にどのように影響を及ぼすかを理解することができる ・化学物質による健康被害を防ぐには、どのような対策があるかを理解することができる ごみの減量のため、どのような行動をとるかを理解することができる ・水の安心な利用のため、どのような整備、	○	○	○	14

	<p>(2) 上下水道の整備と汚染処理</p> <p>6. 食品の安全性の確保</p> <p>(1) 食品の安全性と健康被害</p> <p>(2) 食品衛生管理と求められる私たちの役割</p>	<p>処理がなされているかを理解することができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品の安全性の確保のため、どのように管理されているかを理解することができる ・食品による健康被害に対し、消費者に何が求められているかを理解することができる 					
3 学 期	<p>第2節 保健・医療制度と機関</p> <p>1. 保健・医療制度</p> <p>(1) 保健行政のしくみ</p> <p>(2) 医療制度と臓器移植・献血</p> <p>2. 地域の保健機関・医療機関の活用</p> <p>(1) 保健機関の活用</p> <p>(2) 医療機関の活用</p> <p>3. 医薬品と健康</p> <p>(1) 医薬品の種類</p> <p>(2) 医薬品による影響</p> <p>4. さまざまな保健活動や社会的対策</p> <p>(1) 日本での保健活動と対策</p> <p>(2) 世界での保健活動と対策</p> <p>5. 健康に関する環境づくりと社会参加</p> <p>(1) 健康の保持・増進のための環境</p> <p>(2) よりよい環境づくりと健康情報</p>	<p>第2節 保健・医療制度と機関</p> <p>1. 保健・医療制度</p> <p>2. 地域の保健機関・医療機関の活用</p> <p>3. 医薬品と健康</p> <p>4. さまざまな保健活動や社会的対策</p> <p>5. 健康に関する環境づくりと社会参加</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の医療保険制度の仕組みを理解することができる ・日本の臓器移植の課題を理解することができる ・保健・医療機関とは、どのようなものか理解することができる ・保健・医療機関を活用する際の留意点を理解することができる ・医薬品を正しく使用するには、どのような知識が必要か理解することができる ・医薬品による健康被害を防ぐには、どのような対策が必要か理解することができる ・生活習慣病予防のため、どのような保健活動が実施されているかを理解することができる ・世界では、どのような組織が何を行っているかを理解することができる ・ヘルスプロモーションに基づいた環境づくりとは何かを理解することができる ・有効な健康情報とは何かを理解することができる 	○	○	○	10
							合計

令和5年度(2023年度) 年間指導計画

教科	保健体育	対象クラス	○ 必修	単位数	2単位
科目	体育	3学年全クラス	必修選択		
使用教科書 使用教材	ステップアップ高校スポーツ (大修館)		科目担当者		
評価の 観点・方法	①出席状況 ②ノート・レポート提出状況 ③授業への取り組み・実技テスト ①～③を総合的に判断し評価するが、ノートの未提出が多い時は、評価が低くなること				

学期	月	単元	具体的指導目標	指導内容	予定時数
1 学 期	4	オリエンテーション 体づくり運動(新体カテスト含む)	班活動のねらい、計画・実行・修正の一連を理解する。各種目の体ほぐし運動を知る。新体カテスト方法を理解する。	・資料を用いたオリエンテーション ・班活動の計画表・役割分担・出欠表等ファイル作成 ・新体カテスト	4
	5	体づくり運動(新体カテスト含む) 各班による種目選択授業Ⅰ期	各種目の体ほぐし運動の組み合わせを考える。 班活動を協力し、計画通りに安全に活動できる。	・各種目に応じた体ほぐし運動 ・新体カテスト ・選択種目の学習: バレーボール、バドミントン、ソフトボール、サッカー、硬式テニス、卓球	6
	6	体づくり運動(新体カテスト含む)	各種目の体ほぐし運動の組み合わせを考える。 班活動を協力し、計画通りに安全に活動できる。	・各種目に応じた体ほぐし運動 ・新体カテスト ・選択種目の学習: バレーボール、バドミントン、ソフトボール、サッカー、硬式テニス、卓球	6
	7	体育理論	豊かなスポーツライフの設計の仕方	ライフステージに応じた運動(トレーニング負荷・頻度、スポーツを通じたコミュニケーション)方法	2
	8				
2 学 期	9	各班による種目選択授業Ⅱ期	各種目の体ほぐし運動の組み合わせを考える。 班活動を協力し、計画通りに安全に活動できる。	・体づくり運動の組み合わせ ・選択種目の学習: バスケッボール、バドミントン、バレーボール、テニス、サッカー、ソフトボール、卓球	6
	10	各班による種目選択授業Ⅱ期	各種目の体ほぐし運動の組み合わせを考える。 班活動を協力し、計画通りに安全に活動できる。	・体づくり運動の組み合わせ ・選択種目の学習: バスケッボール、バドミントン、バレーボール、テニス、サッカー、ソフトボール、卓球	6
	11	各班による種目選択授業Ⅲ期	各種目の体ほぐし運動の組み合わせを考える。 班活動を協力し、計画通りに安全に活動できる。	・体づくり運動の組み合わせ ・選択種目の学習: バスケッボール、バドミントン、バレーボール、テニス、サッカー、ソフトボール、卓球	6
	12	体育理論	豊かなスポーツライフの設計の仕方	・スポーツ振興 ・スポーツと環境の関係性	2
3 学 期	1	各班による種目選択授業Ⅲ期	各種目の体ほぐし運動の組み合わせを考える。 班活動を協力し、計画通りに安全に活動できる。	・体づくり運動の組み合わせ ・選択種目の学習: バスケッボール、バドミントン、バレーボール、テニス、サッカー、ソフトボール、卓球	6
	2				
	3				